

事業の進捗状況について

①出張セミナー

②診察待機期間の支援

西宮市立こども未来センター診療所所長

太田秀紀

出張セミナー 中間報告

出張セミナー（専門医による訪問支援事業）

【要旨】通常学級所属で発達障害やその傾向を持つ児童に対し、教員全体の支援スキルを高め、子どもが安心して前向きに過ごせる学校づくりに寄与するため、専門医の学校への派遣事業を行います。

【方法】年度の前半と後半に専門医が学校訪問し、授業の見学と担任等とのディスカッション・指導助言を行う。

年1回の全教員向けの研修（講演+ケース検討会）を実施する。

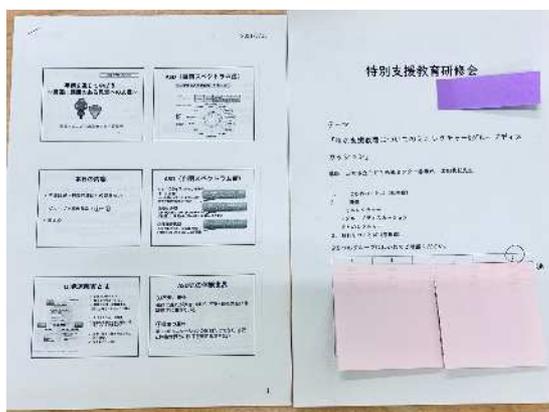
実施期間は原則2年間。3年目以降は学校ごとのニーズによって検討。

研修のみの単発依頼も可。

出張セミナーの実際



出張セミナー（研修会）



<モデル校で実施した研修資料例>

- 神経発達症（発達障害）についてのミニレクチャー+事例を通じたグループディスカッション

→1年目は「基礎編」

2年目は「応用（実践）編」で構成

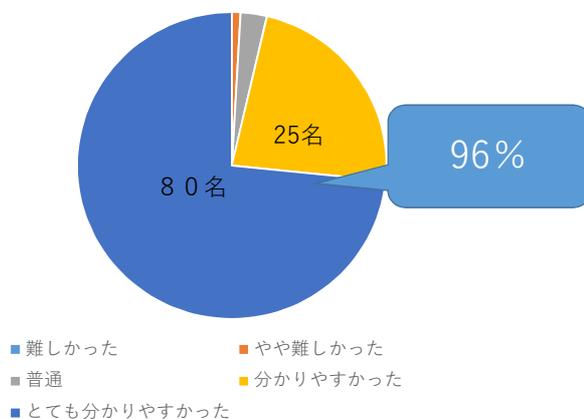
- こども未来センターのスタッフがファシリテーターとして参加

- 単回の研修会も可能。

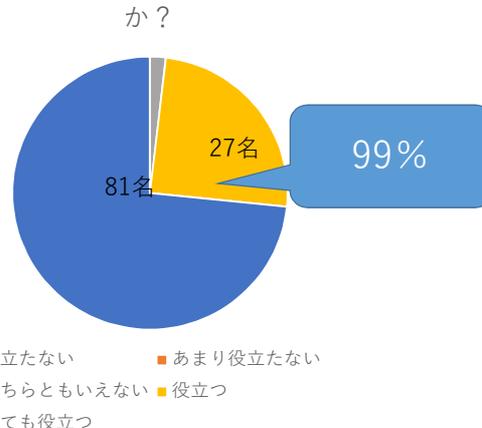
（例：「不登校と発達障害」について）

夏季研修：アンケート結果（N=109）

内容は分かりやすかったか？

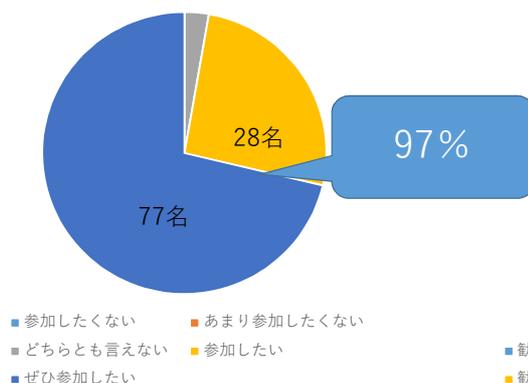


これからの授業・指導に役立ちそうか？



夏季研修：アンケート結果（N=109）

このような研修会にまた参加したいか？



このような研修会は他の教員にも勧められるか？



研修会：アンケート結果（自由記載から抜粋）

- 具体的で分かりやすかった
- 教員だけでなく未来センターの職員が（グループに）入ったことでただの話し合いにとどまらず良かった
- 二学期のスタートにふさわしい内容だった
- （児童への対応に）具体的なヒントをいただけた
- 「明日から頑張ろう！」と思える研修だった
- 保護者対応にフォーカスした内容を聞きたい
- 他の事例についても聞きたい
- 児童と教師がうまく繋がっていない事例について
- 不登校、不登校になりつつある事例について
- 頭では理解できても、実際には対応に悩む

令和7年度に向けて

- 指定校（1年目、2年目）の選定
- 単回の訪問、研修会にも対応
- 校内報などで保護者にも周知を促す
- 小学校以外でも希望あれば対応

診察待機期間の支援について

「診察前支援（旧称）」についてのWG

WG実施
 第一回2024.8.21
 第二回9.25
 第三回10.16

- 診察前支援の概要
- 各課で現在実施している支援策の整理、役割分担
- 利用者、市民、関係機関への広報の仕方

診察前支援の概要

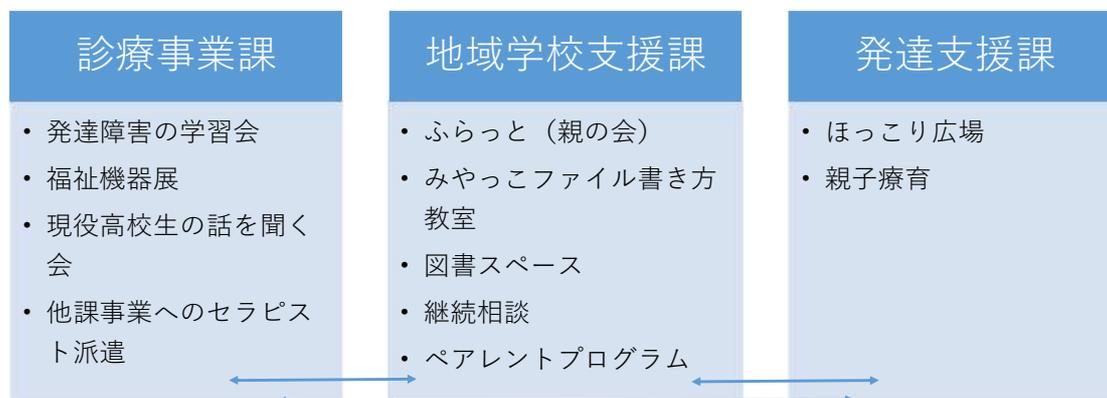
☆診察前支援とは☆
 医師診察を受ける前から始まる、親子への支援策

- 利用者は「早期支援が開始されている」と実感
- センターはインテーク以降のフローがスムーズに展開できる



診察待機期間8-9か月 ← 劇的な短縮は望めない

各課の支援策の役割分担・有効活用法



「診察前支援」という名称の変更 → 「**こども未来サポート**」に。

利用者、市民、関係機関への広報

- 利用者に「診察前に支援が受けれている」実感を
→ 「こども未来サポート」を分かりやすく説明・案内する手法
- 市民に未来センターの取り組みについて知ってもらう
→ HP、SNS等の活用、アクセスしやすい情報発信
- 地域保健課、西児連、医師会などへの周知
→ 未来センターの使い方を正しく理解してもらう・スキルアップの一助としてもらう

「こども未来サポート」今後の取り組み

- 利用者向けリーフレット等の作成
- こども未来センター公式Xでの定期的な発信
- 図書スペースの有効活用
- 関係機関への広報・周知